

説明文

「さんむ」という家の玄関兼リビングとなる、成東駅前広場のためのストリートファニチャー

山武、成東駅に着いた時に感じる、どこか懐かしい安心感・雰囲気そのまま街に流し、そのほっとする空気と、山武杉のあたたかみによってできる落ち着ける空間を広場として提案します。

夕暮れどきがとても綺麗な作田川の形をモチーフにし、「流す」形を表現しました。

はじめて訪れる人も、帰ってくる人も、駅から次の行き先までのいっぶくができ、それがまちの風景の一つとなるようにと考えています。

このストリートファニチャーにできることは、待つ、休む、話す、出会う、宿る、遊ぶ、呑む、、など、多元性を持っています。

『このストリートファニチャーは、まちに新しい物語を生む。』

演目その 1 「待つ」 あらすじ…まだ新しい制服を見に包んだ成東高校の学生がベンチで最近できたクラスの友達と待ち合わせをしていた。待っていると、となりに座ってきたおばさんが話しかけてくる。「あったかいね」「そうですね」

演目その 2 「休む」 あらすじ…浪切不動への散歩がてら、和菓子屋「橋本」で買ったいちご大福をカウンターで食べていたら、隣にいた人に「どこで買ったの?」と聞かれた。これから、行ってみるそうだ。

こんな物語が生まれるかもしれない。

このストリートファニチャーは、このまちの舞台装置であって、名脇役でもある。また、まちを見守る観客でもある。きっとそのような存在のストリートファニチャーになるだろう。』